ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	飯田　佐恵

主な担当科目	基礎ゼミ,インターンシップ,音楽教育メソッド実践Ⅰ,基本ソルフェージュ①,基本ソルフェージュ②,鍵盤演奏表現Ⅰ,総合ソルフェージュ①,総合ソルフェージュⅲ,卒業論文,実技個人レッスン[ピアノ①,ピアノ②,ピアノ③,ピアノⅠ②,ピアノ実技Ⅰ③,ピアノ実技Ⅰ④,音楽芸術表現実技（ピアノ）②]
シラバス	次ページをご参照ください

2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	コロナ禍が続く一方で制限の緩和が進む中、より充実した教育内容が求められる。連弾や視唱、グループワークを取り入れる一方で、2022年度入学生全員に配付されるiPadの活用についても工夫したい。留学生や要配慮の学生など、多様な学生に有意義な学びの機会を提供できるよう心がけたい。
2022年の教育に関する自己評価	授業での連弾（「インターンシップ」「音楽教育メソッド実践Ⅰ」等）、視唱（ソルフェージュ科目等）を感染対策を行いながら実施し、授業内のディスカッションを増やした。一方で「総合ソルフェージュ①」での電子教科書改訂をはじめiPadでの学修に合ったデータ活用を進め、Teamsでの授業教材や自習教材の配付や、フォームによる課題提出を推進した。多様な学生に理解してもらうため、簡潔な言葉遣いを心がけた。未入国留学生にもこまめに対応し、入国後の受講にスムーズに移行できた。

2022年のFD活動に関する自己評価	FD全体研修会のほか、関係する学内組織のFD研修会に全て出席し、積極的に発言できた。各FD研修会で得た知識を、その後の教育活動に活かすことができている。2022年度第1回鍵盤楽器学内組織FD研修会では、特に電子オルガン担当教員の話し合いを進行して、入試やスケール試験に関して具体的な意見交換ができた。
授業改善のために取り入れた研修内容	音楽教養コース学内組織でのFD研修会では、4年次の卒業研究について詳しい説明があった。同コース3年次の学生の実技レッスンの中で、来年度の卒業研究を意識しながら選曲するなど、学生と話し合いながら準備を進めている。ソルフェージュ学内組織FD研修会でのiPad活用法が役立っている。3月の全体FD研修会での内容が、要配慮の学生に対する対応の中で役立っている。

科目名－クラス名

基礎ゼミ

曜日時限

火 5時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	前期	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	40	0	0	60	100

教育到達目標と概要

初年次の導入教育として「大学における学び」のためのスタートアップを行う。
①自分自身の学びの環境を知る（建学の精神、カリキュラム、大学内の学修・研究施設のツアー）
②「大学で学ぶ」とは？（大学での学び、本学の特徴的な科目とその意味）
③自ら主体的に学ぶために必要な基本的なスキルを修得（図書館ガイダンス、情報モラルとリスクマネジメント）
④キャリアデザインを描く（学修ポートフォリオ）
⑤コミュニケーション・スキルを学ぶ（グループワークによる情報の収集・整理・プレゼンテーション・ディスカッション）

学修成果

1.「聴く・読む・調べる・まとめる・書く・伝える」等から、知識・技能・態度を身につけることができる。
2. コミュニケーションスキル、情報リテラシー等から論理的な思考力や汎用力を身につけ，今後に役立てることができる。
3. 主体的で探究的な学びをとおして、課題を発見し解決を図る力を身につけ今後に活かすことができる。
4. キャリアデザインを描くことができる。

授業展開と内容

第1回　【合同授業（4月のオリエンテーション内）】
礼節技の人間教育、大学内の学修・研究施設ガイダンス
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第2回　【合同授業（4月のオリエンテーション内）】
本学の特徴的な科目（芸術特別研究、音楽活動研究）、キャリア講座
（担当：基礎ゼミ担当教員、各授業担当教員ほか）

第3回　【合同授業】
大学のカリキュラムについて、テアトロ・ジーリオ・ショウワの紹介
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第4回　【合同授業】
大学での学びについて、図書館ガイダンス
（担当：基礎ゼミ担当教員、図書館職員）

第5回　【合同授業】
大学での学びについて、ポートフォリオの活用
（担当：基礎ゼミ担当教員、岩村哲）

第6回　【合同授業】
情報モラル、研究倫理、リスクマネジメントについて
（担当：基礎ゼミ担当教員、情報セキュリティ・研究倫理担当教職員）

第7回　【個別クラス】
学ぶための技法：読む・聴く・調べる・整理する　～自己紹介と目標設定～
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第8回　【個別クラス】
学ぶための技法：まとめる・書く①　～レポートのテーマを考える～
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第9回　【個別クラス】
学ぶための技法：まとめる・書く②　～レポートを執筆する～　（レポート課題提出）
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第10回　【個別クラス】
学ぶための技法：まとめる・書く③　～レポートの講評～　／表現する・伝える
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第11回　【個別クラス】
課題発見とその解決
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第12回　【個別クラス】
プレゼンテーションの準備
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第13回 【個別クラス】
プレゼンテーション（授業内小テスト）
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第14回 【合同授業】
各専攻教員による講座でプレゼンテーション能力を高める
（担当：基礎ゼミ担当教員ほか）

第15回 【合同授業】
全体発表（選抜されたグループによる発表）
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第16回
第17回
第18回
第19回
第20回
第21回
第22回
第23回
第24回
第25回
第26回
第27回
第28回
第29回
第30回

履修上の注意

・授業は、講義のほか、少人数グループでの話し合い・発表など、グループで協力して行うことが多いので、他メンバーに迷惑をかけないように遅刻・欠席等に対する自覚を持って出席・参加してください。
・合同授業では授業後に感想等をMS Formsに入力してもらいます。これは授業内小テスト（30%）に相当します。提出（送信）時にスクリーンショット（または画面の写真）をとる、提出者自身に送信内容が送られるようにするなどして、記録を残してください。
・第4回授業の授業外学修として、「図書館ツアー」と「OPACガイダンス」に必ず参加してください。
※注意：新型コロナウィルス対応のため変則的な運用をする可能性がありますので、ポータルサイトでのお知らせをよくチェックしてください。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・予習として事前にテキストを確認し、関連する情報を収集する（30分程度）、復習として毎回の授業の要点や感想をまとめる（30分程度）など、主体的に学修すること。
・「図書館ツアー」と「OPACガイダンス」に必ず参加すること（第4回授業で説明します）。
・そのほか、必要に応じて都度、指示します。
・授業で提示した課題等については、授業内でフィードバック（解説、要点の確認）します。

教科書・参考書

・「基礎ゼミ」専用の電子版テキストを配付します。

科目名－クラス名

基礎ゼミ

曜日時限

火 5時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	前期	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	40	0	0	60	100

教育到達目標と概要

初年次の導入教育として「大学における学び」のためのスタートアップを行う。
①自分自身の学びの環境を知る（建学の精神、カリキュラム、大学内の学修・研究施設のツアー）
②「大学で学ぶ」とは？（大学での学び、本学の特徴的な科目とその意味）
③自ら主体的に学ぶために必要な基本的なスキルを修得（図書館ガイダンス、情報モラルとリスクマネジメント）
④キャリアデザインを描く（学修ポートフォリオ）
⑤コミュニケーション・スキルを学ぶ（グループワークによる情報の収集・整理・プレゼンテーション・ディスカッション）

学修成果

1.「聴く・読む・調べる・まとめる・書く・伝える」等から、知識・技能・態度を身につけることができる。
2. コミュニケーションスキル、情報リテラシー等から論理的な思考力や汎用力を身につけ，今後に役立てることができる。
3. 主体的で探究的な学びをとおして、課題を発見し解決を図る力を身につけ今後に活かすことができる。
4. キャリアデザインを描くことができる。

授業展開と内容

第1回　【合同授業（4月のオリエンテーション内）】
礼節技の人間教育、大学内の学修・研究施設ガイダンス
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第2回　【合同授業（4月のオリエンテーション内）】
本学の特徴的な科目（芸術特別研究、音楽活動研究）、キャリア講座
（担当：基礎ゼミ担当教員、各授業担当教員ほか）

第3回　【合同授業】
大学のカリキュラムについて、テアトロ・ジーリオ・ショウワの紹介
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第4回　【合同授業】
大学での学びについて、図書館ガイダンス
（担当：基礎ゼミ担当教員、図書館職員）

第5回　【合同授業】
大学での学びについて、ポートフォリオの活用
（担当：基礎ゼミ担当教員、岩村哲）

第6回　【合同授業】
情報モラル、研究倫理、リスクマネジメントについて
（担当：基礎ゼミ担当教員、情報セキュリティ・研究倫理担当教職員）

第7回　【個別クラス】
学ぶための技法：読む・聴く・調べる・整理する　～自己紹介と目標設定～
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第8回　【個別クラス】
学ぶための技法：まとめる・書く①　～レポートのテーマを考える～
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第9回　【個別クラス】
学ぶための技法：まとめる・書く②　～レポートを執筆する～　（レポート課題提出）
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第10回　【個別クラス】
学ぶための技法：まとめる・書く③　～レポートの講評～　／表現する・伝える
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第11回　【個別クラス】
課題発見とその解決
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第12回　【個別クラス】
プレゼンテーションの準備
（担当：基礎ゼミ担当教員）

第13回	【個別クラス】 プレゼンテーション（授業内小テスト） （担当：基礎ゼミ担当教員）
第14回	【合同授業】 各専攻教員による講座でプレゼンテーション能力を高める （担当：基礎ゼミ担当教員ほか）
第15回	【合同授業】 全体発表（選抜されたグループによる発表） （担当：基礎ゼミ担当教員）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

・授業は、講義のほか、少人数グループでの話し合い・発表など、グループで協力して行うことが多いので、他メンバーに迷惑をかけないように遅刻・欠席等に対する自覚を持って出席・参加してください。
・合同授業では授業後に感想等をMS Formsに入力してもらいます。これは授業内小テスト（30%）に相当します。提出（送信）時にスクリーンショット（または画面の写真）をとる、提出者自身に送信内容が送られるようにするなどして、記録を残してください。
・第4回授業の授業外学修として、「図書館ツアー」と「OPACガイダンス

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・予習として事前にテキストを確認し、関連する情報を収集する（30分程度）、復習として毎回の授業の要点や感想をまとめる（30分程度）など、主体的に学修すること。
・「図書館ツアー」と「OPACガイダンス」に必ず参加すること（第4回授業で説明します）。
・そのほか、必要に応じて都度、指示します。
・授業で提示した課題等については、授業内でフィードバック（解説、要点の確認）します。

教科書・参考書

・「基礎ゼミ」専用の電子版テキストを配付します。

科目名－クラス名

インターンシップ

曜日時限

火 2時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	4～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	20	0	10	70	100

教育到達目標と概要

学習者が音楽の理解を深め、更には自己の可能性を探求して豊かな表現力を身に付けるためのレッスンとはどのようなものか。模擬レッスンで学生がそれぞれ指導者役と学習者役を体験し、ディスカッションを通じてより良いレッスンを考察する。個人レッスンだけでなく、グループレッスン、アンサンブル、さらにはオンラインでの指導も学ぶ。教材の活用方法を学びながら、指導に必要な技能を向上させる。

学修成果

授業内実習において学習者、指導者、オブザーバーの立場に立つことで、レッスンへの客観的・多角的な視野を持つことができる。実習を通じて指導力を養い、自信をもって指導に臨めるようになる。コミュニケーション能力を伸ばし、対人関係において臨機応変に対応できるようになる。ディスカッションで自分の意見を的確に述べる力を培う。他人の意見を取り入れて自分の考えを発展させることを学ぶ。今後需要が見込まれるICT技術を用いた指導を経験する。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション：これまでの学びを振り返り、授業に向けて教材やレッスン展開を話し合う。（江口、飯田）

第2回　実習への準備：指導者としてのレッスンでの心得や、コミュニケーションの重要性を学ぶ。模擬レッスン実習に向けて役割分担と教材選びを行う。（飯田）

第3回　個人レッスンの実習①：初めてのレッスンを想定した模擬レッスンとディスカッション。（飯田）

第4回　個人レッスンの実習②：２回目のレッスンを想定した模擬レッスンとディスカッション。（飯田）

第5回　個人レッスン実習の復習：２回のレッスンを総括し、問題点と改善方法をディスカッションする。（飯田）

第6回　大人のレッスン：中高年の生徒さんの指導を想定した模擬レッスン。（飯田）

第7回　グループレッスン①：少人数（２～３名）の初めてのグループレッスンを想定した模擬レッスンとディスカッション。（飯田）

第8回　グループレッスン②：少人数（２～３名）の２回目のグループレッスンを想定した模擬レッスンとディスカッション。（飯田）

第9回　グループレッスン③：10名程度のグループレッスンを想定した模擬レッスンとディスカッション。（飯田）

第10回　指導者の心を学ぶ：本当に大切なことは何か。（江口、飯田）

第11回　指導の現場を知る：昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室のシステムと指導。（飯田）

第12回　初見奏演習：レッスンに不可欠な初見奏技能の向上を目的とした演習。（飯田）

第13回　読譜力の指導：ピアノ奏に不可欠な読譜力の指導法を学び、教材を知る。（飯田）

第14回　ソルフェージュの指導：リズム打ち、視唱など、ピアノ奏に役立つソルフェージュのレッスンへの取り入れ方を考察する。（飯田）

第15回　前期のまとめ：授業を振り返り、各自の夏休みの課題を決定する。（飯田）

第16回　夏休み課題成果発表と、後期のガイダンス。（飯田）

第17回　ICT活用法：楽譜作成ソフトを使った編曲や、レッスンでのタブレット活用法を考える。（飯田）

第18回　オンラインでの模擬レッスンと、ディスカッション①：問題点を知る。（オンライン・飯田）

第19回　オンラインでの模擬レッスンと、ディスカッション②：問題を解決し、より良いレッスンを考える。（オンライン・飯田）

第20回　オンラインレッスンを総括し、対面レッスンとの違いを考える。（飯田）

第21回　アメリカのピアノ教育教材を中心に、海外の教育メソッドの特徴を知る。（飯田）

第22回　コード奏演習：コード奏による簡単な伴奏付けを学び、レッスンでの活用法を考える。（飯田）

第23回　連弾①：連弾教材を演奏し、レッスンでの展開を考える。（飯田）

第24回　連弾②：６手連弾など、４手連弾以外の連弾教材を演奏し、レッスンでの活用法を探る。（飯田）

第25回　アンサンブルの指導①：合唱曲の伴奏を中心とした実習。（飯田）

第26回　アンサンブルの指導②：歌曲と室内楽を中心とした実習。（飯田）

第27回　楽曲分析からの指導を考える：インヴェンション等を題材に。（飯田）

第28回　様々な想定での模擬レッスンを行う（授業内小テスト）。（飯田）

第29回　総括：１年間の授業を振り返り、話し合う。レポート提出。（飯田）

第30回　総復習：指導者として、社会人として、これまでの学修をどのように活かしていくかのディスカッション。（江口、飯田）

履修上の注意

ノートを持参すること。配付されたプリントはファイルすること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業で扱う教材の研究や、課題の演奏など、必要な予習・復習を90分程度すること。実習やディスカッションの内容を60分かけて復習し、次週の実習に向けて準備すること。夏休み成果発表、レポート課題、また毎授業内で扱う課題に対しては、授業内で適宜個別にアドバイスを行う。

教科書・参考書

各自所有の教材を活用する。授業の進度・内容に応じてプリントを配付する。

科目名－クラス名

音楽教育メソッド実践Ⅰ

曜日時限

火 3時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	30	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽の３要素はリズム、メロディー、ハーモニーであるが、さらに根源を辿れば、音、言葉、身体のつながりによる総合的なものである。しかし音楽は断片的になり特殊化されがちで、器楽においては特に「音」のみに捉われがちである。

本授業ではエミール・ジャック＝ダルクローズが考案した「リトミック」に加えて、カール・オルフ、ゾルターン・コダーイ等が20世紀に編み出した音楽教育メソッドを前期に学修する。講義に加えて実際にメソッドを体験、実践する。それらを踏まえて後期には、フランスを中心としたソルフェージュ教育を扱い、さらに各国における音楽教育を考察する。内容によっては専門の講師を招いて、より深い理解を目指し、幅広く実践を行う。

学修を通して音楽的な視野を広げ、総合的に音楽を捉えられるようになることを目標とする。

学修成果

様々な音楽教育メソッドを知る。それらを実践することにより、自分自身の総合的な音楽能力を高める。更には将来指導者としてより良い音楽教育を行う基盤を作る。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス：授業の概要と注意点の説明（A316教室）

第2回　E. ジャック＝ダルクローズの教育①（C602教室）
リズム：「ダルクローズリトミック」について・様々な動きと動くために必要な空間への意識
ソルフェージュ：主音感・音階のニュアンス
（特別講師：平島美保）

第3回　E. ジャック＝ダルクローズの教育②（C602教室）
リズム：フレーズとニュアンス・音価（音符）・拍とその分割形のニュアンス
ソルフェージュ：全音と半音
（特別講師：平島美保）

第4回　E. ジャック＝ダルクローズの教育③（C602教室）
リズム：リズムパターン・リズムフレーズ
ソルフェージュ：音列
（特別講師：平島美保）

第5回　E. ジャック＝ダルクローズの教育④（C602教室）
リズム：拍子
ソルフェージュ：ダルクローズスケール（長調）
（特別講師：平島美保）

第6回　E. ジャック＝ダルクローズの教育⑤（C602教室）
リズム：クロスリズム（2：3、3：2）・クロスリズム（4：3、3：4）
ソルフェージュ：ダルクローズスケール（長調）
（特別講師：平島美保）

第7回　E. ジャック＝ダルクローズの教育⑥（C602教室）
リズム：補足リズム
ソルフェージュ：Tonic/Dominant/Subdominant
（特別講師：平島美保）

第8回　C. オルフの教育①（C602教室）
C.オルフの「音と動きの教育」理念と特徴、ボディーパーカッションによる模倣リズム
（外部講師：細田淳子）

第9回　C. オルフの教育②（C602教室）
絵本に効果音を付ける。手作り楽器と既存の楽器で。
（外部講師：細田淳子）

第10回　C. オルフの教育③（C602教室）
カスタネットアンサンブルとその創作
（外部講師：細田淳子）

第11回　Z. コダーイの教育①（C602教室）
わらべうたに親しむ

第12回　Z. コダーイの教育②（A316教室）
ハンドサイン、レターサイン、リズム譜を知る

第13回 Z. コダーイの教育③ （A316教室）
移動ド唱法、２声唱の実践

第14回 Z. コダーイの教育④
３声唱の実践、ピアノ奏への応用

第15回 Z. コダーイ周辺のピアノ教育
バルトーク「ミクロコスモス」、クルターク「遊び」（レポート提出：前期を振り返って）

第16回 ソルフェージュ① （A316教室）
ソルフェージュの歴史と意義を学び、様々な教材を知る

第17回 ソルフェージュ② （A316教室）
リズム打ちと視唱、様々な音部譜表の読譜

第18回 ソルフェージュ③ （A316教室）
様々な音部譜表の読譜と視唱、移調

第19回 ソルフェージュ④
ピアノでの初見奏、伴奏付け、弾き歌い

第20回 ソルフェージュ⑤ （A316教室）
総合的なソルフェージュの実践（P. ヒンデミット著「音楽家の基礎練習」などから）

第21回 フォルマシオン・ミュジカル① （A316教室）
A. コレルリ作曲「クリスマス協奏曲」作品6-8を通してバロックのコンチェルト・グロッソを知る

第22回 フォルマシオン・ミュジカル② （A316教室）
F. J. ハイドン 作曲のピアノソナタなどを用いて古典のソナタと和声を学ぶ

第23回 フォルマシオン・ミュジカル③ （A316教室）
自ら楽曲を選んで、フォルマシオン・ミュジカルの指導課題を考える（課題提出）

第24回 フォルマシオン・ミュジカル④ （A316教室）
前週に考えた課題を指導実践する

第25回 ロシアの音楽教育① （A316教室）
ソヴィエト連邦時代からの音楽教育とロシアのピアニズムについて
（特別講師：深川美奈）

第26回 ロシアの音楽教育② （A316教室）
ロシアの作曲家によるピアノ音楽教材
（特別講師：深川美奈）

第27回 フィンランドの音楽教育① （A316教室）
音楽教育システムについて

第28回 フィンランドの音楽教育② （A316教室）
ピアノ音楽教育と教材における国民性の反映

第29回 ベネズエラ発祥の「エル・システマ」から、音楽の社会的意義を考える（A316教室）

第30回 総復習（レポート提出）（A316教室）

履修上の注意

ノートを持参すること。配付されたプリントはファイルすること。
授業開講日、開講教室に変更がある場合があるので、事前にシラバスや教員からの指示を確認すること。なお感染対策のため授業内容に変更がある場合がある。
第２回～第７回：動きやすい服装で、足さばきがスムーズな服を着用。スカートやジーンズは避ける。原則として素足だが、現状から「底の薄いダンスシューズ」の着用を推奨する。
第8回～第10回：動きやすい服装で参加すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

週60分程度、各自復習を繰り返すことで学修内容の習熟に努めるとともに、授業に向けて必要な準備をすること。レポートに対してのフィードバックのほか、授業内で適宜アドバイスがある。

教科書・参考書

適宜指示する。またはプリントを配付する。

科目名－クラス名

音楽教育メソッド実践Ⅰ

曜日時限

火 3時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	30	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽の３要素はリズム、メロディー、ハーモニーであるが、さらに根源を辿れば、音、言葉、身体のつながりによる総合的なものである。しかし音楽は断片的になり特殊化されがちで、器楽においては特に「音」のみに捉われがちである。

本授業ではエミール・ジャック＝ダルクローズが考案した「リトミック」に加えて、カール・オルフ、ゾルターン・コダーイ等が20世紀に編み出した音楽教育メソッドを前期に学修する。講義に加えて実際にメソッドを体験、実践する。それらを踏まえて後期には、フランスを中心としたソルフェージュ教育を扱い、さ

学修成果

様々な音楽教育メソッドを知る。それらを実践することにより、自分自身の総合的な音楽能力を高める。更には将来指導者としてより良い音楽教育を行う基盤を作る。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス：授業の概要と注意点の説明（A316教室）

第2回　E. ジャック＝ダルクローズの教育①（C602教室）
リズム：「ダルクローズリトミック」について・様々な動きと動くために必要な空間への意識
ソルフェージュ：主音感・音階のニュアンス
（特別講師：平島美保）

第3回　E. ジャック＝ダルクローズの教育②（C602教室）
リズム：フレーズとニュアンス・音価（音符）・拍とその分割形のニュアンス
ソルフェージュ：全音と半音
（特別講師：平島美保）

第4回　E. ジャック＝ダルクローズの教育③（C602教室）
リズム：リズムパターン・リズムフレーズ
ソルフェージュ：音列
（特別講師：平島美保）

第5回　E. ジャック＝ダルクローズの教育④（C602教室）
リズム：拍子
ソルフェージュ：ダルクローズスケール（長調）
（特別講師：平島美保）

第6回　E. ジャック＝ダルクローズの教育⑤（C602教室）
リズム：クロスリズム（2：3、3：2）・クロスリズム（4：3、3：4）
ソルフェージュ：ダルクローズスケール（長調）
（特別講師：平島美保）

第7回　E. ジャック＝ダルクローズの教育⑥（C602教室）
リズム：補足リズム
ソルフェージュ：Tonic/Dominant/Subdominant
（特別講師：平島美保）

第8回　C. オルフの教育①（C602教室）
C.オルフの「音と動きの教育」理念と特徴、ボディーパーカッションによる模倣リズム
（外部講師：細田淳子）

第9回　C. オルフの教育②（C602教室）
絵本に効果音を付ける。手作り楽器と既存の楽器で。
（外部講師：細田淳子）

第10回　C. オルフの教育③（C602教室）
カスタネットアンサンブルとその創作
（外部講師：細田淳子）

第11回　Z. コダーイの教育①（C602教室）
わらべうたに親しむ

第12回　Z. コダーイの教育②（A316教室）
ハンドサイン、レターサイン、リズム譜を知る

第13回　Z. コダーイの教育③（A316教室）
移動ド唱法、２声唱の実践

第14回 Z. コダーイの教育④
３声唱の実践、ピアノ奏への応用

第15回 Z. コダーイ周辺のピアノ教育
バルトーク「ミクロコスモス」、クルターク「遊び」（レポート提出：前期を振り返って）

第16回 ソルフェージュ①（A316教室）
ソルフェージュの歴史と意義を学び、様々な教材を知る

第17回 ソルフェージュ②（A316教室）
リズム打ちと視唱、様々な音部譜表の読譜

第18回 ソルフェージュ③（A316教室）
様々な音部譜表の読譜と視唱、移調

第19回 ソルフェージュ④
ピアノでの初見奏、伴奏付け、弾き歌い

第20回 ソルフェージュ⑤（A316教室）
総合的なソルフェージュの実践（P. ヒンデミット著「音楽家の基礎練習」などから）

第21回 フォルマシオン・ミュジカル①（A316教室）
A. コレルリ作曲「クリスマス協奏曲」作品6-8を通してバロックのコンチェルト・グロッソを知る

第22回 フォルマシオン・ミュジカル②（A316教室）
F. J. ハイドン 作曲のピアノソナタなどを用いて古典のソナタと和声を学ぶ

第23回 フォルマシオン・ミュジカル③（A316教室）
自ら楽曲を選んで、フォルマシオン・ミュジカルの指導課題を考える（課題提出）

第24回 フォルマシオン・ミュジカル④（A316教室）
前週に考えた課題を指導実践する

第25回 ロシアの音楽教育①（A316教室）
ソヴィエト連邦時代からの音楽教育とロシアのピアニズムについて
（特別講師：深川美奈）

第26回 ロシアの音楽教育②（A316教室）
ロシアの作曲家によるピアノ音楽教材
（特別講師：深川美奈）

第27回 フィンランドの音楽教育①（A316教室）
音楽教育システムについて

第28回 フィンランドの音楽教育②（A316教室）
ピアノ音楽教育と教材における国民性の反映

第29回 ベネズエラ発祥の「エル・システマ」から、音楽の社会的意義を考える（A316教室）

第30回 総復習（レポート提出）（A316教室）

履修上の注意

ノートを持参すること。配付されたプリントはファイルすること。
授業開講日、開講教室に変更がある場合があるので、事前にシラバスや教員からの指示を確認すること。なお感染対策のため授業内容に変更がある場合がある。
第２回～第７回：動きやすい服装で、足さばきがスムーズな服を着用。スカートやジーンズは避ける。原則として素足だが、現状から「底の薄いダンスシューズ」の着用を推奨する。
第8回～第10回：動きやすい服装で参加すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

週60分程度、各自復習を繰り返すことで学修内容の習熟に努めるとともに、授業に向けて必要な準備をすること。レポートに対してのフィードバックのほか、授業内で適宜アドバイスがある。

教科書・参考書

適宜指示する。またはプリントを配付する。

科目名－クラス名

基本ソルフェージュ②　A

曜日時限

木 1時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽に関わる上で音を聴く、書き取る、表現するなどの基礎的能力は欠かすことのできないものである。一方において、これらの能力には相互に関連があり、ひとつひとつばらばらに切り離して考えることはできない。この授業では、これらの能力を初歩から総合的に養い、互いに結びつけながら開発して着実に身につけることを目的とする。基礎的な読譜能力の養成から簡易な書き取り、視唱を複数クラスに分けて行う。

学修成果

楽譜を読む、音を書き取るなど音楽の基礎となる要素を身に付け、楽譜理解を相互的に深めることで、次年度以降の応用的ソルフェージュ教育に繋げられるようになる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション：授業の進め方の説明、クラスの状況の確認など

第2回　楽譜の書き方、拍子の取り方、音の長さの聴き取り方の確認を中心として行う

第3回　音程の確認、主に四分音符・四分休符を使った旋律、簡単な和音を聴き歌う練習

第4回　さくらさくら を用いて日本の音階に親しみ、歌詞と曲想を味わう

第5回　夏の思い出 を用いて歌詞を伴ったメロディーに含まれる三連音符やフェルマータの表現に慣れる

第6回　赤とんぼ を用いて3/4拍子の歌謡に親しみ、歌詞をよく味わい表現する

第7回　雪　を用いて歌曲特有の記譜を学び、音符と歌詞の両方を見ながら、はっきりと表現する

第8回　J. S. バッハ メヌエット（①の前期第13回、14回）を復習し、シャープ調の長音階について理解を深め、移調をしてみる

第9回　スメタナ モルダウを（①の後期第2回、3回）を復習し、３種類の短調についてよく理解する

第10回　ホルスト 組曲「惑星」 から 〈木星〉（①の後期第14回）を復習し、フラット調の長音階について理解を深め、移調をしてみる

第11回　ドヴォルザーク 交響曲第9番を用いて金管楽器のフレーズの特徴を味わって歌う

第12回　金管楽器の移調楽器について学び、記譜を見ながら実音を歌ってみる

第13回　フォーレ シチリアーノを用いて臨時記号の付いた音の高さと旋法を味わう

第14回　速度に関する楽語を学ぶ

第15回　前期のまとめ

第16回　前期の復習

第17回　ショパン ピアノソナタ第2番「葬送」を用いて曲想を味わい、特徴となる前打音の表現を学ぶ

第18回　ソナタ形式の仕組みを理解する

第19回　J.S.バッハ フーガを用いて ト短調を味わう

第20回　フーガの構成について理解をし、実際に多声部で歌う

第21回　プロコフィエフ ピーターと狼を用いて弦楽器特有の奏法表示を読む

第22回　オーケストラの楽器群について学ぶ

第23回　ラヴェル ボレロ を用いてタイのあるメロディーのリズムを聴き取る

第24回　ボレロのリズムについて学び、歌い、リズムを表現する

第25回　J.S.バッハ G線上のアリアを用いて4/8で書かれているゆったりとした楽曲に親しむ

第26回　移調して楽譜を書き、歌う。

第27回　グノー アヴェ・マリアを用いて長いフレーズを味わう

第28回　アヴェマリア（バッハ - グノー）の和音進行を用いて、自分で旋律を作ってみる

第29回　1年間に学んだ楽典的内容・楽器の知識について復習する

第30回　模擬試験…試験への準備

履修上の注意

予習・復習を充分に行って授業に望むこと。教材を毎回持参すること。出席を重視する（欠席が多い場合は受験停止となるので注意する事）。出された宿題を次の授業までに実施すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習を充分に行い、授業で取り上げる楽曲を積極的に聴くこと（約60分）。15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

基本ソルフェージュ教材（昭和音楽大学）

科目名－クラス名

基本ソルフェージュ②　A

曜日時限

木 1時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽に関わる上で音を聴く、書き取る、表現するなどの基礎的能力は欠かすことのできないものである。一方において、これらの能力には相互に関連があり、ひとつひとつばらばらに切り離して考えることはできない。この授業では、これらの能力を初歩から総合的に養い、互いに結びつけながら開発して着実に身につけることを目的とする。基礎的な読譜能力の養成から簡易な書き取り、視唱を複数クラスに分けて行う。

学修成果

楽譜を読む、音を書き取るなど音楽の基礎となる要素を身に付け、楽譜理解を相互的に深めることで、次年度以降の応用的ソルフェージュ教育に繋げられるようになる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション：授業の進め方の説明、クラスの状況の確認など

第2回　楽譜の書き方、拍子の取り方、音の長さの聴き取り方の確認を中心として行う

第3回　音程の確認、主に四分音符・四分休符を使った旋律、簡単な和音を聴き歌う練習

第4回　さくらさくら を用いて日本の音階に親しみ、歌詞と曲想を味わう

第5回　夏の思い出 を用いて歌詞を伴ったメロディーに含まれる三連音符やフェルマータの表現に慣れる

第6回　赤とんぼ を用いて3/4拍子の歌謡に親しみ、歌詞をよく味わい表現する

第7回　雪　を用いて歌曲特有の記譜を学び、音符と歌詞の両方を見ながら、はっきりと表現する

第8回　J. S. バッハ メヌエット（①の前期第13回、14回）を復習し、シャープ調の長音階について理解を深め、移調をしてみる

第9回　スメタナ モルダウを（①の後期第2回、3回）を復習し、３種類の短調についてよく理解する

第10回　ホルスト 組曲「惑星」 から 〈木星〉（①の後期第14回）を復習し、フラット調の長音階について理解を深め、移調をしてみる

第11回　ドヴォルザーク 交響曲第9番を用いて金管楽器のフレーズの特徴を味わって歌う

第12回　金管楽器の移調楽器について学び、記譜を見ながら実音を歌ってみる

第13回　フォーレ シチリアーノを用いて臨時記号の付いた音の高さと旋法を味わう

第14回　速度に関する楽語を学ぶ

第15回　前期のまとめ

第16回　前期の復習

第17回　ショパン ピアノソナタ第2番「葬送」を用いて曲想を味わい、特徴となる前打音の表現を学ぶ

第18回　ソナタ形式の仕組みを理解する

第19回　J.S.バッハ フーガを用いて ト短調を味わう

第20回　フーガの構成について理解をし、実際に多声部で歌う

第21回　プロコフィエフ ピーターと狼を用いて弦楽器特有の奏法表示を読む

第22回　オーケストラの楽器群について学ぶ

第23回　ラヴェル ボレロ を用いてタイのあるメロディーのリズムを聴き取る

第24回　ボレロのリズムについて学び、歌い、リズムを表現する

第25回　J.S.バッハ G線上のアリアを用いて4/8で書かれているゆったりとした楽曲に親しむ

第26回　移調して楽譜を書き、歌う。

第27回　グノー アヴェ・マリアを用いて 長いフレーズを味わう

第28回　アヴェマリア（バッハ - グノー）の和音進行を用いて、自分で旋律を作ってみる

第29回　1年間に学んだ楽典的内容・楽器の知識について復習する

第30回　模擬試験…試験への準備

履修上の注意

予習・復習を充分に行って授業に望むこと。教材を毎回持参すること。出席を重視する（欠席が多い場合は受験停止となるので注意する事）。出された宿題を次の授業までに実施すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習・復習を充分に行い、授業で取り上げる楽曲を積極的に聴くこと（約60分）。15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

基本ソルフェージュ教材（昭和音楽大学）

科目名－クラス名

鍵盤演奏表現Ⅰ　F

曜日時限

金 1時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	0	0	0	30	100

教育到達目標と概要

主にピアノ未経験者を対象としている。基本的音楽知識やピアノの基本的演奏力の修得とともに、多様化した音楽に対応し得る能力の開発を目標とする。　毎回の授業では楽典、音楽の基本知識、音楽理論を学ぶとともに、ピアノ演奏に必要なテクニックを基礎から学修し、難易度の低い楽曲から順に演奏できるようにしていく。またポピュラー音楽やアンサンブル、即興演奏も取り入れて、音楽を総合的に把握できるようにする。
授業では音楽教育用コンピューターシステム(ミュージック･ラボラトリー）を使用する。教員と学生が１対１、または教員対複数学生でのやりとりが可能であり、グループ授業でありながら、同時にシステム上で交信することにより、教員が模範演奏を示したり、学生の演奏を確認するなど、個別にきめ細かく指導することができる。

学修成果

グループレッスンの形態により、他の学生と共に切磋琢磨しながら初歩から力を蓄え、簡単な小さな作品を音楽的に演奏できる様になる。また、理論的な事柄も初歩より鍵盤と結びつけながら、実践的に確実に身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション・１年の授業の流れについて・
楽典および基本的音楽知識の確認

第2回　音名①（ドイツ語）
スケールと指のトレーニング（ハ長調）
楽曲演習①譜読みの正確さ

第3回　音名②（英語）
スケールと指のトレーニング（ハ短調）
楽曲演習①テクニック

第4回　音階・調性
スケールと指のトレーニング（ト長調）
楽曲演習①音楽的な表現

第5回　コード・ハーモニーについて
スケールと指のトレーニング（ト短調）
楽曲演習②譜読みの正確さ

第6回　コード進行①　Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ度、終止のカデンツ
スケールと指のトレーニング（ヘ長調）
楽曲演習②テクニック

第7回　コード進行②　Ⅱ度、終止のカデンツ
スケールと指のトレーニング（ヘ短調）
楽曲演習②音楽的な表現

第8回　コード進行③　Ⅰ－Ⅵ－Ⅱ－Ⅴ7
スケールと指のトレーニング（ニ長調）
楽曲演習③譜読みの正確さ

第9回　コード進行④　Ⅰ－ⅳ/Ⅴ－Ⅳ－○Ⅳ－Ⅰ
スケールと指のトレーニング（ニ短調）
楽曲演習③テクニック

第10回　音程①　1，8，2度
スケールと指のトレーニング（イ長調）
楽曲演習③音楽的な表現

第11回　音程②　3度
スケールと指のトレーニング（イ短調）
楽曲演習④譜読みの正確さ

第12回　音程③　4度、増音程・減音程
スケールと指のトレーニング（ホ長調）
楽曲演習④テクニック

第13回　音程④　5度
スケールと指のトレーニング（ホ短調）
楽曲演習④音楽的な表現

第14回 音程⑤　６度
スケールと指のトレーニング（ロ長調）
楽曲の復習

第15回 音程⑥　７度、音程の復習、前期の楽典の総括
スケールと指のトレーニング（ロ短調）
楽曲の復習・まとめの小テスト

第16回 アナリーゼ①（コードネーム）　鍵盤による実践
スケールと指のトレーニング（変ロ長調）
楽曲演習⑤譜読みの正確さ

第17回 アナリーゼ②（和音記号）　鍵盤による実践
スケールと指のトレーニング（変ロ短調）
楽曲演習⑤テクニック

第18回 コード進行⑤　VI度・偽終止
スケールと指のトレーニング（変ホ長調）
楽曲演習⑤音楽的な表現

第19回 コード進行⑥　ドッペルドミナント
スケールと指のトレーニング（変ホ短調）
楽曲演習⑥譜読みの正確さ

第20回 ドミナント進行①　ダイアトニック
スケールと指のトレーニング（変イ長調）
楽曲演習⑥テクニック

第21回 ドミナント進行②　属７の連続
スケールと指のトレーニング（嬰ト短調）
楽曲演習⑥音楽的な表現

第22回 ドミナント進行③　反復進行
スケールと指のトレーニング（変ニ長調）
楽曲演習⑦譜読みの正確さ

第23回 伴奏形①　メロディーに和音を付けて弾く
スケールと指のトレーニング（嬰ハ短調）
楽曲演習⑦テクニック

第24回 伴奏形②　弾ける伴奏型を増やす
スケールと指のトレーニング（難しい調の復習）
楽曲演習⑦音楽的な表現

第25回 伴奏形③　イントロを考える
スケールと指のトレーニング（難しい調の復習）
楽曲演習⑧譜読みの正確さ

第26回 伴奏形④　いろいろな伴奏形を調べる
スケールと指のトレーニング（変ト長調）
楽曲演習⑧テクニック

第27回 伴奏形⑤　アレンジに取り掛かる（嬰へ短調）
スケールと指のトレーニング（（嬰へ短調）
楽曲演習⑧音楽的な表現

第28回 伴奏形⑥　アレンジをまとめる
スケールと指のトレーニング（難しい調の復習）
楽曲演習の中から自分のレパートリーを決める

第29回 まとめ：楽典、アレンジ曲の仕上げ
スケール苦手な調の克服
楽曲レパートリーの苦手部分の克服

第30回 まとめ：楽典、アレンジ曲の演奏の仕上げ
スケール各調の復習、
楽曲レパートリーの演奏表現の向上

履修上の注意

毎回の授業の積み重ねが大切であるため、全回出席する努力を怠らないこと。積極的かつ自主的に実践にのぞむこと。五線紙持参のこと。イヤホン（有線・3.5mmミニプラグ）を持参することが望ましい。★この授業はピアノ演奏初心者レベル対象です。履修する際に注意してください。音楽教養コースピアノ主科／音楽と社会コースピアノ主科の学生、ピアノⅡを履修済／履修予定の学生は、履修できません。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業後には必ず理論的な内容の復習と楽曲演奏の練習をすること（60分）。　スケール・カデンツ基礎的なテクニックは毎日少しずつ日課として行うこと。
15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも適時個別アドバイスを加える。

教科書・参考書

教科書：諸井野ぞ美『Music Theory & Keyboard Practice』（昭和音楽大学）
その他教員が適時プリントを配付、指示する。

科目名－クラス名

鍵盤演奏表現Ⅰ　C

曜日時限

金 1時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	70	0	0	0	30	100

教育到達目標と概要

主にピアノ未経験者を対象としている。基本的音楽知識やピアノの基本的演奏力の修得とともに、多様化した音楽に対応し得る能力の開発を目標とする。　毎回の授業では楽典、音楽の基本知識、音楽理論を学ぶとともに、ピアノ演奏に必要なテクニックを基礎から学修し、難易度の低い楽曲から順に演奏できるようにしていく。またポピュラー音楽やアンサンブル、即興演奏も取り入れて、音楽を総合的に把握できるようにする。
授業では音楽教育用コンピューターシステム(ミュージック･ラボラトリー）を使用する。教員と学生が１対１、または教員対複数

学修成果

グループレッスンの形態により、他の学生と共に切磋琢磨しながら初歩から力を蓄え、簡単な小さな作品を音楽的に演奏できる様になる。また、理論的な事柄も初歩より鍵盤と結びつけながら、実践的に確実に身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション・１年の授業の流れについて・
楽典および基本的音楽知識の確認

第2回　音名①（ドイツ語）
スケールと指のトレーニング（ハ長調）
楽曲演習①譜読みの正確さ

第3回　音名②（英語）
スケールと指のトレーニング（ハ短調）
楽曲演習①テクニック

第4回　音階・調性
スケールと指のトレーニング（ト長調）
楽曲演習①音楽的な表現

第5回　コード・ハーモニーについて
スケールと指のトレーニング（ト短調）
楽曲演習②譜読みの正確さ

第6回　コード進行①　Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ度、終止のカデンツ
スケールと指のトレーニング（ヘ長調）
楽曲演習②テクニック

第7回　コード進行②　Ⅱ度、終止のカデンツ
スケールと指のトレーニング（ヘ短調）
楽曲演習②音楽的な表現

第8回　コード進行③　Ⅰ－Ⅵ－Ⅱ－Ⅴ7
スケールと指のトレーニング（ニ長調）
楽曲演習③譜読みの正確さ

第9回　コード進行④　Ⅰ－ⅳ/Ⅴ－Ⅳ－○Ⅳ－Ⅰ
スケールと指のトレーニング（ニ短調）
楽曲演習③テクニック

第10回　音程①　1，8，2度
スケールと指のトレーニング（イ長調）
楽曲演習③音楽的な表現

第11回　音程②　3度
スケールと指のトレーニング（イ短調）
楽曲演習④譜読みの正確さ

第12回　音程③　4度、増音程・減音程
スケールと指のトレーニング（ホ長調）
楽曲演習④テクニック

第13回　音程④　5度
スケールと指のトレーニング（ホ短調）
楽曲演習④音楽的な表現

第14回　音程⑤　6度
スケールと指のトレーニング（ロ長調）

楽曲の復習

第15回 音程⑥　７度、音程の復習、前期の楽典の総括
スケールと指のトレーニング（ロ短調）
楽曲の復習・まとめの小テスト

第16回 アナリーゼ①（コードネーム）　鍵盤による実践
スケールと指のトレーニング（変ロ長調）
楽曲演習⑤譜読みの正確さ

第17回 アナリーゼ②（和音記号）　鍵盤による実践
スケールと指のトレーニング（変ロ短調）
楽曲演習⑤テクニック

第18回 コード進行⑤　VI度・偽終止
スケールと指のトレーニング（変ホ長調）
楽曲演習⑤音楽的な表現

第19回 コード進行⑥　ドッペルドミナント
スケールと指のトレーニング（変ホ短調）
楽曲演習⑥譜読みの正確さ

第20回 ドミナント進行①　ダイアトニック
スケールと指のトレーニング（変イ長調）
楽曲演習⑥テクニック

第21回 ドミナント進行②　属７の連続
スケールと指のトレーニング（嬰ト短調）
楽曲演習⑥音楽的な表現

第22回 ドミナント進行③　反復進行
スケールと指のトレーニング（変ニ長調）
楽曲演習⑦譜読みの正確さ

第23回 伴奏形①　メロディーに和音を付けて弾く
スケールと指のトレーニング（嬰ハ短調）
楽曲演習⑦テクニック

第24回 伴奏形②　弾ける伴奏型を増やす
スケールと指のトレーニング（難しい調の復習）
楽曲演習⑦音楽的な表現

第25回 伴奏形③　イントロを考える
スケールと指のトレーニング（難しい調の復習）
楽曲演習⑧譜読みの正確さ

第26回 伴奏形④　いろいろな伴奏形を調べる
スケールと指のトレーニング（変ト長調）
楽曲演習⑧テクニック

第27回 伴奏形⑤　アレンジに取り掛かる（嬰へ短調）
スケールと指のトレーニング（（嬰へ短調）
楽曲演習⑧音楽的な表現

第28回 伴奏形⑥　アレンジをまとめる
スケールと指のトレーニング（難しい調の復習）
楽曲演習の中から自分のレパートリーを決める

第29回 まとめ：楽典、アレンジ曲の仕上げ
スケール苦手な調の克服
楽曲レパートリーの苦手部分の克服

第30回 まとめ：楽典、アレンジ曲の演奏の仕上げ
スケール各調の復習、
楽曲レパートリーの演奏表現の向上

履修上の注意

毎回の授業の積み重ねが大切であるため、全回出席する努力を怠らないこと。積極的かつ自主的に実践にのぞむこと。五線紙持参のこと。イヤホン（有線・3.5mmミニプラグ）を持参することが望ましい。★この授業はピアノ演奏初心者レベル対象です。履修する際に注意してください。音楽教養コースピアノ主科／音楽と社会コースピアノ主科の学生、ピアノⅡを履修済／履修予定の学生は、履修できません。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業後には必ず理論的な内容の復習と楽曲演奏の練習をすること（60分）。　スケール・カデンツ基礎的なテクニックは毎日少しずつ日課として行うこと。
15回目に行うまとめの課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも適時個別アドバイスを加える。

教科書・参考書

教科書：諸井野ぞ美『Music Theory & Keyboard Practice』（昭和音楽大学）
その他教員が適時プリントを配付、指示する。

科目名－クラス名

総合ソルフェージュ①　A

曜日時限

木 3時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

20世紀後半に確立された「フォルマシオン・ミュジカル（FORMATION MUSICALE）」は、音楽表現を向上させるために総合的にソルフェージュを学ぶ音楽教育方法である。その精神に基づき、様々な時代の有名な作曲家の名曲を題材として選び、①聴き取り②音読③楽典④楽曲分析⑤作曲家と時代背景など、多彩な内容を修得する。

学修成果

バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、フォーレなどの楽曲を用いて、聴音、リズム、読譜、視唱、フレーズ、調性、終止形、ハ音記号（アルト譜表等）、総譜、および作曲家の特徴など、幅広い音楽的内容の基礎を修得していくことにより、音楽を総合的に理解できるようになる。感性豊かな音楽家になるための基礎力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　授業ガイダンス

第2回　[Haydn: Symphony No. 94 II] などを用いてC-dur ２声聴音、アルト譜表読み、終止形、視唱

第3回　[Mozart: Die Zauberflöte “Der Vogelfänger bin ich ja”] などを用いてG-dur 聴音（ヘ音記号）、近親調

第4回　[Beethoven: Symphony No. 9 IV] などを用いてD-dur ２声聴音（ヘ音記号）、アルト譜表記入、視唱

第5回　古典派楽曲の復習と補完：近親調、ドッペルドミナントなどの理解を深める

第6回　[Schubert: Sonata for the pianoforte and the arpeggione I] などを用いてa-moll 和声聴音、ナポリの六の和音

第7回　[Mendelssohn: Lied ohne Worte op. 19b-6] などを用いてg-moll ２声聴音、オルゲルプンクト、二重唱

第8回　前期ロマン派楽曲の復習と補完：和声の理解を深める

第9回　[Wagner: Parsifal - Vorspiel] などを用いてAs-dur 聴音、6/4リズム、示導動機、移調楽器、視唱

第10回　[Franck: Prélude pour orgue] などを用いてh-moll 聴音、9/8リズム、オルゲルプンクト、視唱

第11回　ロマン派の諸作品を用いての復習と補完：リズムと複合拍子を中心に

第12回　[Brahms: Sonata for the pianoforte and the violin Op. 108 II] などを用いてD-dur ２声聴音、ヘミオラ

第13回　[Ravel: Pavane pour une infante défunte] などを用いてG-dur ２声聴音、旋法、視唱

第14回　理論の説明と課題練習（前期に扱った調性と和声の理解、リズムと聴音の演習など）

第15回　総復習（前期学修内容の確認）

第16回　[Vivaldi: Il Cimento dell' Armonia e dell' Inventione -- Concerto III] などを用いてF-dur アルト譜表で聴音

第17回　[Purcell: Abdelazar Suite “Rondeau”] などを用いてd-moll ２声・和声聴音、3/2リズム、通奏低音（数字譜）

第18回　[Händel: Messiah “For unto us a Child is born”] などを用いてG-dur 聴音、英語歌詞記入、ゼクエンツ

第19回　[J. S. Bach: Matthäuspassion No. 3] などを用いてh-moll 聴音、４部合唱、ソプラノ・テノール譜表、通奏低音

第20回　バロック楽曲の復習と補完：通奏低音とゼクエンツを中心に

第21回　[Mozart: Die Zauberflöte “Duo Pamina-Papageno”] などを用いてEs-dur 聴音、ドイツ語歌詞記入、二重唱

第22回　古典の楽曲を用いて：和声とカデンツの理解を深める

第23回　[Schubert: Die Forelle] などを用いてDes-dur 単旋律聴音、ドイツ語歌詞記入、移調、和音と終止形、視唱

第24回　[Schumann: Fantasiestücke op. 73 II] などを用いてA-dur ２声聴音、２対３のリズム、移調楽器（A管）

第25回　[Brahms: Variationen über ein Thema von Joseph Haydn - Thema und Variation IV] などを用いてB-dur ３声聴音、移調楽器（B管）

第26回　古典・ロマン派楽曲の復習と補完：複属和音の理解を深める

第27回　[Fauré: Pelléas et Mélisande “Sicilienne”] などを用いてg-moll ２声聴音、和声聴音、和音、旋法、視唱

第28回　ロシアの諸作品などを用いて：旋法の理解を深める

第29回　理論の説明と課題練習（後期に扱った調性と和声の理解、リズムと聴音の演習など）

第30回　総復習（後期および通年の学修内容の確認）

履修上の注意

五線譜と、（所持している学生は）iPad等タブレット端末を必ず持参すること。配付物はファイルすること。授業は演習ですから、予習・復習を行って授業に臨むこと。教材は自宅でも閲覧可。指示された読譜、音楽用語、視唱およびリズム課題に積極的に取り組むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習用教材および授業で使用した教材は自宅でも閲覧可能である。約60分の授業外学修のうち、予習として次回扱う楽曲を聴き、授業後は復習により理解を深め、関連する作品を鑑賞すること。
第15回に行う総復習の課題は、後期の最初に、採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

オリジナル電子教材（授業ではiPadを使用する）。

科目名－クラス名

総合ソルフェージュ①　A

曜日時限

木 3時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

20世紀後半に確立された「フォルマシオン・ミュジカル（FORMATION MUSICALE）」は、音楽表現を向上させるために総合的にソルフェージュを学ぶ音楽教育方法である。その精神に基づき、様々な時代の有名な作曲家の名曲を題材として選び、①聴き取り②音読③楽典④楽曲分析⑤作曲家と時代背景など、多彩な内容を修得する。

学修成果

バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、フォーレなどの楽曲を用いて、聴音、リズム、読譜、視唱、フレーズ、調性、終止形、ハ音記号（アルト譜表等）、総譜、および作曲家の特徴など、幅広い音楽的内容の基礎を修得していくことにより、音楽を総合的に理解できるようになる。感性豊かな音楽家になるための基礎力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　授業ガイダンス

第2回　[Haydn: Symphony No. 94 II] などを用いてC-dur ２声聴音、アルト譜表読み、終止形、視唱

第3回　[Mozart: Die Zauberflöte “Der Vogelfänger bin ich ja”] などを用いてG-dur 聴音（ヘ音記号）、近親調

第4回　[Beethoven: Symphony No. 9 IV] などを用いてD-dur ２声聴音（ヘ音記号）、アルト譜表記入、視唱

第5回　古典派楽曲の復習と補完：近親調、ドッペルドミナントなどの理解を深める

第6回　[Schubert: Sonata for the pianoforte and the arpeggione I] などを用いてa-moll 和声聴音、ナポリの六の和音

第7回　[Mendelssohn: Lied ohne Worte op. 19b-6] などを用いてg-moll ２声聴音、オルゲルプンクト、二重唱

第8回　前期ロマン派楽曲の復習と補完：和声の理解を深める

第9回　[Wagner: Parsifal - Vorspiel] などを用いてAs-dur 聴音、6/4リズム、示導動機、移調楽器、視唱

第10回　[Franck: Prélude pour orgue] などを用いてh-moll 聴音、9/8リズム、オルゲルプンクト、視唱

第11回　ロマン派の諸作品を用いての復習と補完：リズムと複合拍子を中心に

第12回　[Brahms: Sonata for the pianoforte and the violin Op. 108 II] などを用いてD-dur ２声聴音、ヘミオラ

第13回　[Ravel: Pavane pour une infante défunte] などを用いてG-dur ２声聴音、旋法、視唱

第14回　理論の説明と課題練習（前期に扱った調性と和声の理解、リズムと聴音の演習など）

第15回　総復習（前期学修内容の確認）

第16回　[Vivaldi: Il Cimento dell' Armonia e dell' Inventione -- Concerto III] などを用いてF-dur アルト譜表で聴音

第17回　[Purcell: Abdelazar Suite “Rondeau”] などを用いてd-moll ２声・和声聴音、3/2リズム、通奏低音（数字譜）

第18回　[Händel: Messiah “For unto us a Child is born”] などを用いてG-dur 聴音、英語歌詞記入、ゼクエンツ

第19回　[J. S. Bach: Matthäuspassion No. 3] などを用いてh-moll 聴音、４部合唱、ソプラノ・テノール譜表、通奏低音

第20回　バロック楽曲の復習と補完：通奏低音とゼクエンツを中心に

第21回　[Mozart: Die Zauberflöte “Duo Pamina-Papageno”] などを用いてEs-dur 聴音、ドイツ語歌詞記入、二重唱

第22回　古典の楽曲を用いて：和声とカデンツの理解を深める

第23回　[Schubert: Die Forelle] などを用いてDes-dur 単旋律聴音、ドイツ語歌詞記入、移調、和音と終止形、視唱

第24回　[Schumann: Fantasiestücke op. 73 II] などを用いてA-dur ２声聴音、２対３のリズム、移調楽器（A管）

第25回　[Brahms: Variationen über ein Thema von Joseph Haydn - Thema und Variation IV] などを用いてB-dur ３声聴音、移調楽器（B管）

第26回　古典・ロマン派楽曲の復習と補完：複属和音の理解を深める

第27回　[Fauré: Pelléas et Mélisande “Sicilienne”] などを用いてg-moll ２声聴音、和声聴音、和音、旋法、視唱

第28回　ロシアの諸作品などを用いて：旋法の理解を深める

第29回　理論の説明と課題練習（後期に扱った調性と和声の理解、リズムと聴音の演習など）

第30回　総復習（後期および通年の学修内容の確認）

履修上の注意

五線譜と、（所持している学生は）iPad等タブレット端末を必ず持参すること。配付物はファイルすること。授業は演習ですから、予習・復習を行って授業に臨むこと。教材は自宅でも閲覧可。指示された読譜、音楽用語、視唱およびリズム課題に積極的に取り組むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

予習用教材および授業で使用した教材は自宅でも閲覧可能である。約60分の授業外学修のうち、予習として次回扱う楽曲を聴き、授業後は復習により理解を深め、関連する作品を鑑賞すること。
第15回に行う総復習の課題は、後期の最初に、採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

オリジナル電子教材（授業ではiPadを使用する）。

科目名－クラス名

卒業論文　ピアノ指導者

曜日時限

水 2時限

担当教員

飯田　佐恵

授業形態	開講年次	開講期	単位数
その他	4～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	70	0	10	20	100

教育到達目標と概要

この科目はメディア授業として開講する。ピアノ指導者コースで3年間学んだ成果を基にして、ピアノ指導に関わる自ら最も興味あるテーマを設定し、卒業論文として執筆する。論文提出後、論文内容について口頭発表の場を設け、クラスで自分の研究を披露する。その際他者の発表を通して多様な知識を身につけることも目指す。さらに教員による論文口頭試問審査を受審しその評価も成績に含まれる。基本的に執筆中はオンラインで画面を共有しながら指導する。必要に応じて対面授業をまじえながら論文を完成させる。

学修成果

ピアノ指導について多くの文献に触れながら、深く考察することにより、指導者として必要な知識を高める。
論文執筆を通して論理的思考力、文章表現力、構成力など、社会人として求められるスキルを向上させる。
オンラインでの授業を通じて、社会で必要とされるICT活用力を身につける。
さらに論文発表や口頭試問により、自らの考えを他者に説明するためのプレゼンテーション力を身につける。

授業展開と内容

第1回　ガイダンス：論文執筆の心構え・論文を知る（対面）

第2回　執筆の準備① テーマを決める（オンライン）

第3回　執筆の準備② 全体のアウトラインを決める：章ごとに内容を決める（オンライン）

第4回　執筆の準備③ 参考文献を揃える：情報検索の方法（図書館での資料の集め方）（対面・特別講師：大和紘子）

第5回　執筆① 本論の構成を練る：小見出しの作成（オンライン）

第6回　執筆② 本論を書く① 小見出しに沿って内容を書く（第１章）（オンライン）

第7回　執筆③ 本論を書く② 小見出しに沿って内容を書く（第２章）（オンライン）

第8回　執筆④ 本論を書く③ 小見出しに沿って内容を書く（第２章の続きまたは第3章）（オンライン）

第9回　執筆⑤ 本論を書く④ 内容を精査する（オンライン）

第10回　執筆⑥ 本論を書く⑤ 文章を整える（オンライン）

第11回　執筆⑦ 本論を書く⑥ 譜例や書式を整える（オンライン）

第12回　執筆⑧ 全体を整える① 必要に応じて補足等を行う（オンライン）

第13回　執筆⑨ 「はじめに」「おわりに」を書く（オンライン）

第14回　執筆⑩ 全体を整える② 仕上げ（オンライン）

第15回　参考文献表を作成する：授業内提出（オンライン）

第16回　前期に提出した論文へのフィードバックを受けて、必要な修正を行う。

第17回　推敲① 論文の体裁を整える（オンライン）

第18回　ディスカッション：クラス内で論文を交換して読み、意見を交わす（対面）

第19回　推敲② ディスカッションの意見を参考に手直しする（オンライン）

第20回　ディスカッション：推敲した論文を交換して読み、もう一度意見交換を行う（対面）

第21回　推敲③ 最終版の体裁を整える（オンライン）

第22回　論文第一次提出（10月19日・オンライン）

第23回　推敲④ 校正を受けて必要な訂正を行う（オンライン）

第24回　推敲⑤ さらに校正を受けて必要な訂正を行い、論文を完成する（オンライン）

第25回　論文発表の準備① 発表の方法や形式を決める （オンライン）

第26回　論文発表の準備② 資料作成等を行う（12月7日・オンライン）

第27回　クラス内論文発表（12月14日・オンライン・成果発表）

第28回　口頭試問準備：論文発表とクラス内でのフィードバックを元に、想定される質問に備える（1月11日・対面）

第29回　口頭試問（1月17日実施、対面）（特別講師：川染　雅嗣、鈴木　二美枝、三谷　温、林田　枝実、尾崎　有飛、後藤　正孝）（授業内小テスト）

第30回	総括：口頭試問で指摘されたことを反映した最終稿を提出する（1月18日・対面）

履修上の注意

執筆文字数は6000字以上12000字以内（図版等別途）とする。
詳細は「論文執筆の手引き」を参照の上、所定の書式によってルールを遵守して執筆すること。
完成後は電子媒体及び印刷したものを両方提出する。手書きは認めないので、WORD等の使用に慣れること。
完成原稿及び電子メディア提出《11月25日（金）17:15 期限厳守、提出先：学務部窓口》
最終稿は1月31日（火）17:00までに、電子媒体にて提出する。
1月17日（火）に第29回授業として口頭試問を行うことに伴い、11月30日（水）は振替休講とする。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

授業ではコンピューターを用いて執筆を進める。授業外でも自宅または大学メディアルームのパソコンで執筆を進めること。少なくとも週150分の授業外学修を必要とする。
必要に応じて、外部の図書館等に足を運び、詳細かつ豊富な資料の収集に努めること。
多くの参考文献を読み語彙を豊富にすること。

教科書・参考書

配付資料「論文執筆の手引き」
他は必要に応じて指示する。

科目名－クラス名

ピアノ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週１回45分レッスンをおこなう。ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。１年次では基礎的演奏技術の習得に主眼をおき、前期実技定期試験では古典派のレパートリーに取り組み、加えて後期実技試験ではロマン派の作品を学びながら幅広い表現力の獲得を目指す。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、個々の作品に即した様々な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解を深めることができる。　②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を研究し、かつ豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。　③作曲家や作品についての広範な理解と演奏解釈を学ぶことにより、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	年間レッスン計画の策定
第2回	個々の学生の状況に応じた課題の点検
第3回	指の筋力の強化方法について①脱力について
第4回	指の筋力の強化方法について②柔軟な運指について
第5回	指の敏捷性の強化方法について①親指の動きについて
第6回	指の敏捷性の強化方法について②より滑らかな動きについて
第7回	エチュードを用いたトレーニング方法について
第8回	古典派の時代背景と特徴について
第9回	古典派の作曲家について
第10回	古典派のピアノ作品について
第11回	古典派ピアノ作品の演奏解釈について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験曲において演奏レヴェルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験にむけての精神面での訓練方法について
第16回	手首・腕の脱力の方法について①レガートについて
第17回	手首・腕の脱力の方法について②強弱に合わせた奏法
第18回	腕・上体の柔軟性を意識した奏法について①姿勢について
第19回	腕・上体の柔軟性を意識した奏法について②動きについて
第20回	ピアノ奏法の歴史的発展について
第21回	ロマン派の時代背景と特徴について
第22回	ロマン派の作曲家について
第23回	ロマン派のピアノ作品について
第24回	ロマン派ピアノ作品の演奏解釈について
第25回	スケールの奏法について
第26回	ハノン　第39番によるスケール、41番によるアルペジョの訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽的表現法について
第29回	後期実技試験曲において演奏レヴェルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験にむけての精神面での訓練方法について

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は積極的に聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コース、音楽と社会コースのピアノ主科実技科目であり、週１回45分レッスンをおこなう。ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学習する。１年次では基礎的演奏技術の習得に主眼をおき、前期実技定期試験では古典派のレパートリーに取り組み、加えて後期実技試験ではロマン派の作品を学びながら、幅広い表現力の獲得を目指す。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、個々の作品に即した様々な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解を深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を研究し、かつ豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての広範な理解と演奏解釈を学ぶことにより将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	年間レッスン計画の策定
第2回	個々の学生の状況に応じた課題の点検
第3回	指の筋力の強化方法について①脱力について
第4回	指の筋力の強化方法について②柔軟な運指について
第5回	指の敏捷性の強化方法について①親指の動きについて
第6回	指の敏捷性の強化方法について②より滑らかな動きについて
第7回	エチュードを用いたトレーニング方法について
第8回	古典派の時代背景と特徴について
第9回	古典派の作曲家について
第10回	古典派のピアノ作品について
第11回	古典派ピアノ作品の演奏解釈について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験曲において演奏レヴェルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験にむけての精神面での訓練方法について
第16回	手首・腕の脱力の方法について①レガートについて
第17回	手首・腕の脱力の方法について②強弱に合わせた奏法
第18回	腕・上体の柔軟性を意識した奏法について①姿勢について
第19回	腕・上体の柔軟性を意識した奏法について②動きについて
第20回	ピアノ奏法の歴史的発展について
第21回	ロマン派の時代背景と特徴について
第22回	ロマン派の作曲家について
第23回	ロマン派のピアノ作品について
第24回	ロマン派ピアノ作品の演奏解釈について
第25回	スケール、アルペジョの奏法について
第26回	ハノン　第39番によるスケール、41番によるアルペジョの訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽的表現法について
第29回	後期実技試験曲において演奏レヴェルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験にむけての精神面での訓練方法について

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週１回45分レッスンをおこなう。ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学修する。１年次では基礎的演奏技術の習得に主眼をおき、前期実技定期試験では古典派のレパートリーに取り組み、加えて後期実技試験ではロマン派の作品を学びながら幅広い表現力の獲得を目指す。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、個々の作品に即した様々な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解を深めることができる。　②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を研究し、かつ豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。　③作曲家や作品についての広範な理解と演奏解釈を学ぶことにより、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回	年間レッスン計画の策定
第2回	個々の学生の状況に応じた課題の点検
第3回	指の筋力の強化方法について①脱力について
第4回	指の筋力の強化方法について②柔軟な運指について
第5回	指の敏捷性の強化方法について①親指の動きについて
第6回	指の敏捷性の強化方法について②より滑らかな動きについて
第7回	エチュードを用いたトレーニング方法について
第8回	古典派の時代背景と特徴について
第9回	古典派の作曲家について
第10回	古典派のピアノ作品について
第11回	古典派ピアノ作品の演奏解釈について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験曲において演奏レヴェルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験にむけての精神面での訓練方法について
第16回	手首・腕の脱力の方法について①レガートについて
第17回	手首・腕の脱力の方法について②強弱に合わせた奏法
第18回	腕・上体の柔軟性を意識した奏法について①姿勢について
第19回	腕・上体の柔軟性を意識した奏法について②動きについて
第20回	ピアノ奏法の歴史的発展について
第21回	ロマン派の時代背景と特徴について
第22回	ロマン派の作曲家について
第23回	ロマン派のピアノ作品について
第24回	ロマン派ピアノ作品の演奏解釈について
第25回	スケールの奏法について
第26回	ハノン　第39番によるスケール、41番によるアルペジョの訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽的表現法について
第29回	後期実技試験曲において演奏レヴェルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験にむけての精神面での訓練方法について

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は積極的に聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修しない学生は、後期の16回目から19回目までは、音楽的な表現を中心にレッスンを進める。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回　１年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回　技術の問題について

第3回　音楽的表現方法について

第4回　バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について

第5回　バロック作品の楽曲分析について

第6回　バロック鍵盤作品の演奏について

第7回　ロマン派のピアノ作品について

第8回　近現代のピアノ作品の特徴について

第9回　前期実技試験のための選曲

第10回　前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第11回　前期実技試験曲の楽曲分析について

第12回　前期実技試験曲の技術的問題点について

第13回　前期実技試験曲の音楽的表現法について

第14回　前期実技試験において演奏レヴェルを向上させる方法について

第15回　前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について

第16回　「コンサート」等で演奏する作品の特徴について

第17回　「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について

第18回　「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について

第19回　「コンサート」等で演奏する作品の演奏レヴェルを向上させる方法について

第20回　近現代のピアノ作品の演奏法

第21回　卒業実技試験のための選曲

第22回　卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第23回　卒業実技試験曲の楽曲分析について

第24回　演奏解釈の多様性について

第25回　演奏技術の訓練方法について

第26回　暗譜のための訓練方法について

第27回　卒業実技試験曲の技術的問題点について

第28回　卒業実技試験曲の音楽表現法について

第29回　卒業実技試験曲の演奏レヴェルを向上させる方法について

第30回	卒業実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回　１年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回　技術の問題について

第3回　音楽的表現方法について

第4回　バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について

第5回　バロック作品の楽曲分析について

第6回　バロック鍵盤作品の演奏について

第7回　ロマン派のピアノ作品について

第8回　近現代のピアノ作品の特徴について

第9回　前期実技試験のための選曲

第10回　前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第11回　前期実技試験曲の楽曲分析について

第12回　前期実技試験曲の技術的問題点について

第13回　前期実技試験曲の音楽的表現法について

第14回　前期実技試験において演奏レヴェルを向上させる方法について

第15回　前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について

第16回　「コンサート」等で演奏する作品の特徴について

第17回　「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について

第18回　「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について

第19回　「コンサート」等で演奏する作品の演奏レヴェルを向上させる方法について

第20回　近現代のピアノ作品の演奏法

第21回　卒業実技試験のための選曲

第22回　卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第23回　卒業実技試験曲の楽曲分析について

第24回　演奏解釈の多様性について

第25回　演奏技術の訓練方法について

第26回　暗譜のための訓練方法について

第27回　卒業実技試験曲の技術的問題点について

第28回　卒業実技試験曲の音楽表現法について

第29回　卒業実技試験曲の演奏レヴェルを向上させる方法について

第30回　卒業実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期実技試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽教養表現Ⅱを履修していない学生は、後期の16

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回　１年次の学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回　技術の問題について

第3回　音楽的表現方法について

第4回　バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について

第5回　バロック作品の楽曲分析について

第6回　バロック鍵盤作品の演奏について

第7回　ロマン派のピアノ作品について

第8回　近現代のピアノ作品の特徴について

第9回　前期実技試験のための選曲

第10回　前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第11回　前期実技試験曲の楽曲分析について

第12回　前期実技試験曲の技術的問題点について

第13回　前期実技試験曲の音楽的表現法について

第14回　前期実技試験において演奏レヴェルを向上させる方法について

第15回　前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について

第16回　「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について

第17回　「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について

第18回　「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について

第19回　「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レヴェルを向上させる方法について

第20回　「音楽教養コースコンサート」の成果について

第21回　バロック音楽からロマン派音楽への変遷　技術的問題

第22回　バロック音楽からロマン派音楽への変遷　音楽的な表現

第23回　バロック音楽からロマン派音楽への変遷　演奏解釈

第24回　後期実技試験曲の選曲について

第25回　後期実技試験の選曲決定

第26回　暗譜のための訓練方法について

第27回　後期実技試験曲の技術的問題点について

第28回　後期実技試験曲の音楽表現法について

第29回　後期実技試験曲の演奏レヴェルを向上させる方法について

第30回　後期実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回　１年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回　技術の問題について

第3回　音楽的表現方法について

第4回　バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について

第5回　バロック作品の楽曲分析について

第6回　バロック鍵盤作品の演奏について

第7回　ロマン派のピアノ作品について

第8回　近現代のピアノ作品の特徴について

第9回　前期実技試験のための選曲

第10回　前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第11回　前期実技試験曲の楽曲分析について

第12回　前期実技試験曲の技術的問題点について

第13回　前期実技試験曲の音楽的表現法について

第14回　前期実技試験において演奏レヴェルを向上させる方法について

第15回　前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について

第16回　「コンサート」等で演奏する作品の特徴について

第17回　「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について

第18回　「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について

第19回　「コンサート」等で演奏する作品の演奏レヴェルを向上させる方法について

第20回　近現代のピアノ作品の演奏法

第21回　卒業実技試験のための選曲

第22回　卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第23回　卒業実技試験曲の楽曲分析について

第24回　演奏解釈の多様性について

第25回　演奏技術の訓練方法について

第26回　暗譜のための訓練方法について

第27回　卒業実技試験曲の技術的問題点について

第28回　卒業実技試験曲の音楽表現法について

第29回　卒業実技試験曲の演奏レヴェルを向上させる方法について

第30回　卒業実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期実技試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽教養表現Ⅱを履修していない学生は、後期の16回目から20回目までの授業について、音楽的な表現を中心にレッスンを進める。

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

第1回　１年次の学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回　技術の問題について

第3回　音楽的表現方法について

第4回　バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について

第5回　バロック作品の楽曲分析について

第6回　バロック鍵盤作品の演奏について

第7回　ロマン派のピアノ作品について

第8回　近現代のピアノ作品の特徴について

第9回　前期実技試験のための選曲

第10回　前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について

第11回　前期実技試験曲の楽曲分析について

第12回　前期実技試験曲の技術的問題点について

第13回　前期実技試験曲の音楽的表現法について

第14回　前期実技試験において演奏レヴェルを向上させる方法について

第15回　前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について

第16回　「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について

第17回　「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について

第18回　「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について

第19回　「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レヴェルを向上させる方法について

第20回　「音楽教養コースコンサート」の成果について

第21回　バロック音楽からロマン派音楽への変遷　技術的問題

第22回　バロック音楽からロマン派音楽への変遷　音楽的な表現

第23回　バロック音楽からロマン派音楽への変遷　演奏解釈

第24回　後期実技試験曲の選曲について

第25回　後期実技試験の選曲決定

第26回　暗譜のための訓練方法について

第27回　後期実技試験曲の技術的問題点について

第28回　後期実技試験曲の音楽表現法について

第29回　後期実技試験曲の演奏レヴェルを向上させる方法について

第30回　後期実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週１回４５分レッスンを行う。１年次、２年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修をさらに深める。３年次ではさらに高度なテクニックを修得し、音楽的表現の向上を目指す。バロックから古典派、ロマン派、近現代と幅広い分野の音楽に触れる。各自の実力に合った選曲を行い、納得のいく音楽表現が出来ることを目標とする。特に前期では腕の脱力、指の強化に努め、後期ではそれ

学修成果

①様々な作曲家の作品に触れ、多様な演奏法、多彩な音色、タッチについてさらに理解を深めることが出来る。②腕の脱力、指の強化により、今までよりレベルの高い曲を演奏することが出来る。③和声感、リズム感に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより、演奏能力を高めることが出来る。④作曲家や作品についての深い理解と演奏能力を身につけ、将来の音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることが出来る。

授業展開と内容

第1回　２年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回　腕の脱力と音質の関係

第3回　腕の筋力の強化について

第4回　指の強化について①はっきりとした音の出し方

第5回　指の強化について②指と鍵盤との関係

第6回　指の強化について③柔軟な手首の使い方

第7回　指の強化について④指使い、運指

第8回　バロック様式の鍵盤楽器奏法について

第9回　バロック様式のテンポについて

第10回　バロック様式の楽曲分析について

第11回　前期実技試験曲の選曲

第12回　前期実技試験の作曲家の時代背景と特徴について

第13回　前期実技試験の楽曲分析について

第14回　前期実技試験の技術的問題点について

第15回　前期実技試験の音楽的表現について

第16回　古典派作曲家の作品①技術的問題点

第17回　古典派作曲家の作品②音楽的表現

第18回　古典派作曲家の作品③演奏解釈

第19回　ロマン派作曲家の作品①技術的問題点

第20回　ロマン派作曲家の作品②音楽的表現

第21回　ロマン派作曲家の作品③演奏解釈

第22回　近現代作曲家の作品①技術的問題点

第23回　近現代作曲家の作品②音楽的表現

第24回　近現代作曲家の作品③演奏解釈

第25回　後期実技試験曲の選曲

第26回　後期実技試験曲の技術的な問題点について

第27回　後期実技試験曲の音楽的な表現方法について

第28回　後期実技試験曲の演奏におけるレベルの向上の方法

第29回　後期実技試験曲の暗譜の確認、方法について

第30回　後期実技試験曲の通奏についての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画の主要課題を示したものであり、教育目標と概要に沿って、各教員の判断により学生個々に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点をもとに成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座、公開レッスンは聴講すること。積極的に演奏会等を聴きに行くこと。

教科書・参考書

使用する教材等については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週１回４５分レッスンを行う。１年次、２年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修をさらに深める。３年次ではさらに高度なテクニックを修得し、音楽的表現の向上を目指す。バロックから古典派、ロマン派、近現代と幅広い分野の音楽に触れる。各自の実力に合った選曲を行い、納得のいく音楽表現が出来ることを目標とする。特に前期では腕の脱力、指の強化に努め、後期ではそれをもとに音楽の演奏法を修得する。

学修成果

①様々な作曲家の作品に触れ、多様な演奏法、多彩な音色、タッチについてさらに理解を深めることが出来る。②腕の脱力、指の強化により、今までよりレベルの高い曲を演奏することが出来る。③和声感、リズム感に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより、演奏能力を高めることが出来る。④作曲家や作品についての深い理解と演奏能力を身につけ、将来の音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることが出来る。

授業展開と内容

第1回　２年次までの学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検

第2回　腕の脱力と音質の関係

第3回　腕の筋力の強化について

第4回　指の強化について①はっきりとした音の出し方

第5回　指の強化について②指と鍵盤との関係

第6回　指の強化について③柔軟な手首の使い方

第7回　指の強化について④指使い、運指

第8回　バロック様式の鍵盤楽器奏法について

第9回　バロック様式のテンポについて

第10回　バロック様式の楽曲分析について

第11回　前期実技試験曲の選曲

第12回　前期実技試験の作曲家の時代背景と特徴について

第13回　前期実技試験の楽曲分析について

第14回　前期実技試験の技術的問題点について

第15回　前期実技試験の音楽的表現について

第16回　古典派作曲家の作品①技術的問題点

第17回　古典派作曲家の作品②音楽的表現

第18回　古典派作曲家の作品③演奏解釈

第19回　ロマン派作曲家の作品①技術的問題点

第20回　ロマン派作曲家の作品②音楽的表現

第21回　ロマン派作曲家の作品③演奏解釈

第22回　近現代作曲家の作品①技術的問題点

第23回　近現代作曲家の作品②音楽的表現

第24回　近現代作曲家の作品③演奏解釈

第25回　後期実技試験曲の選曲

第26回　後期実技試験曲の技術的な問題点について

第27回　後期実技試験曲の音楽的な表現方法について

第28回　後期実技試験曲の演奏におけるレベルの向上の方法

第29回　後期実技試験曲の暗譜の確認、方法について

第30回　後期実技試験曲の通奏についての最終確認

履修上の注意

上記授業展開は年間計画の主要課題を示したものであり、教育目標と概要に沿って、各教員の判断により学生個々に応じた課題を課していく。実技試験は前期１回、後期１回行い、その素点をもとに成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座、公開レッスンは聴講すること。積極的に演奏会等を聴きに行くこと。

教科書・参考書

使用する教材等については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週１回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期１回、後期１回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

充分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週１回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）

第2回　音楽的表現に基づく腕・上体の使い方

第3回　スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）

第4回　スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）

第5回　スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）

第6回　スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）

第7回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）

第8回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）

第9回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）

第10回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）

第11回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）

第12回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）

第13回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）

第14回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）

第15回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

第16回　個々の学生に応じた課題について

第17回　個性ある演奏表現について学ぶ

第18回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）

第19回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）

第20回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）

第21回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）

第22回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）

第23回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）

第24回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）

第25回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）

第26回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）

第27回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）

第28回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）

第29回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）

第30回　卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期１回、後期１回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

充分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週１回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回　オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）

第2回　音楽的表現に基づく腕・上体の使い方

第3回　スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）

第4回　スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）

第5回　スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）

第6回　スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）

第7回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）

第8回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）

第9回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）

第10回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）

第11回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）

第12回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）

第13回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）

第14回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）

第15回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

第16回　個々の学生に応じた課題について

第17回　個性ある演奏表現について学ぶ

第18回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）

第19回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）

第20回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）

第21回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）

第22回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）

第23回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）

第24回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）

第25回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）

第26回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）

第27回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）

第28回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）

第29回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）

第30回　後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期１回、後期１回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

充分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週１回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期１回、後期１回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

充分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週１回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期１回、後期１回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

充分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	9

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー(協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、４年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、４年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

充分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	9

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー(協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、４年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、４年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

充分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	9

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー(協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、４年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、４年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回　前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）

第2回　個々の課題における改善方法

第3回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）

第4回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）

第5回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）

第6回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）

第7回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）

第8回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）

第9回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）

第10回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）

第11回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）

第12回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）

第13回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）

第14回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）

第15回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

第16回　後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）

第17回　個々の課題における改善方法

第18回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）

第19回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）

第20回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）

第21回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）

第22回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）

第23回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）

第24回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）

第25回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）

第26回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）

第27回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）

第28回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）

第29回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）

第30回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	9

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー(協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、４年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、４年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回　前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）

第2回　個々の課題における改善方法

第3回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）

第4回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）

第5回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）

第6回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）

第7回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）

第8回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）

第9回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）

第10回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）

第11回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）

第12回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）

第13回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）

第14回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）

第15回　前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

第16回　後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）

第17回　個々の課題における改善方法

第18回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）

第19回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）

第20回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）

第21回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）

第22回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）

第23回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）

第24回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）

第25回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）

第26回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）

第27回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）

第28回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）

第29回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）

第30回　卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

2022年度(前期)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：673　教員名：飯田　佐恵

１）評価結果に対する所見

総合満足度100%という素晴らしい評価をいただきました。
毎回の授業をしてくださった先生方に感謝申し上げます。

この授業はオムニバス形式で様々な先生方にいらしていただき、電子オルガンを多角的に考察します。講義型、または実践型の授業で、電子楽器の過去と現在を知り、未来を想像する中で、電子オルガンを学ぶ学生たちがこれから進む道を考えるきっかけをたくさん得られたのではないかと思います。

電子オルガンの現状と未来についてご講義くださった諸井野ぞ美先生、うたと電子オルガンの可能性を実践を交えてご講義くださった高瀬麻里子先生、アトリエについての山口綾規先生、ドリマトーンについての前田栄子先生、ポップリズムのルーツと変遷をご講義くださった石川武先生、アコースティック楽器とハイブリッドオーケストラについて演奏も交えてご講義くださった太田茂先生、電子オルガンとPAについて実践を交えてご講義くださった内藤修司先生。そして外部講師として和智正忠先生が「電子鍵盤楽器、そして人間にとっての音楽」、三枝文夫先生が「電子楽器の『音作り』と『鍵盤をもつ意味』」について歴史のご講義と様々なシンセサイザーの実践の機会を与えてくださいました。

先生方、どうもありがとうございました。

２）要望への対応・改善方策

特に要望等はありませんでした。

３）今後の課題

金曜日の前期４、５限開講で15コマという変則的な形での開講となっています。学生や先生方にとって負担の少ない開講の仕方について、今後考えていきたいと思います。

以　上

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：673　教員名：飯田　佐恵

１）評価結果に対する所見

概ね良い評価をいただき、有り難く存じます。特にピアノ実技（回答率は低かったですが）と「鍵盤演奏表現Ⅰ」で総合的満足度100%をいただいたことを嬉しく思います。

その中でピアノ指導者コースの「卒業論文」の満足度が比較的低かったことを重く受け止めます。自由記述で「大変でした。来年から無くなるとのことなので良かったです」（正確には令和6年度から「卒業研究」に変更）とありますが、学部を卒業するにあたってなぜ「卒業論文」があるのか、ピアノ指導者コースでこの授業が設けられている意味を学士力やディプロマポリシーに照らし合わせ、また社会における「大学卒」への期待も考えて、最終学年を過ごしてほしかったと思います。

２）要望への対応・改善方策

「卒業論文」の自由記述で「対面の方が他の学生と意見交換しやすかったかなと思います」とあります。メディア授業として執筆においては効果を感じていますが、学生間での意見交流の場としてブレイクアウトルームを活用するなど工夫したいと思います。

３）今後の課題

大学では、学士力やディプロマポリシー、つまり卒業時にどのような能力を身につけていてほしいかということを考えて、コースごとにカリキュラムが組まれています。特定の授業がなぜ必修になっているのか、授業で扱うことが大学での学び全体の中でどのような意味を持つのか、また社会に出た時にどのように評価されるのか、といったことを学生たちが理解して授業に臨めるよう、これから折に触れて話したいと考えています。ソルフェージュや音楽教育メソッドは、実技に活かせる内容でもありますので、応用や実践の方法についても言及していきたいです。

また最近は、読書の機会が少ないことに加えて、手紙を書くなど日常的に文章で表現する機会も減っているようです。言葉で考えを構築したり思いを表現したりすることの重要性を改めて認識して、意識的にそうした機会を増やすことが大切と考えます。

授業アンケートについてですが、回答率の低い授業があります。授業内で回答するよう時間を設けており、欠席の学生もTeamsで呼びかけているのですが、回答率が50%に至らないものもあります。また自己評価を問うQ1、Q4、Q5、Q8が低い科目は、全般的に満足度も低くなる傾向があります。学生たちが興味を持ち、探求する気持ちを育てられるような授業内容を心がけたいと思います。

以　上